

実践研究中間発表報告会 資料一覧

日 時:平成29年11月1日(水) 16時30分~19時00分

場 所:建昌保育園 2F 会議室

実践研究中間発表報告会

日時 平成29年11月1日(水) 16:30～

場所 建昌保育園 2階ホール

参加者 社会福祉法人 建昌福社会 全職員対象

1.) 開会挨拶 社会福祉法人 建昌福社会 副理事長 伊東 理一郎 16:30

2.) 各事業所発表 (1グループ5分以内とする。複数グループ発表後、評価者よりコメントを頂く)

※発表順番

児童

16:35

第1事業部	2グループ(建昌保育園)	第2事業部	2グループ(菜の花保育園)
第6事業部	2グループ(こぎく保育園)	第9事業部	1グループ(風の子・にしあいら)
第10事業部	1グループ(つぼみ保育園)	第11事業部	1グループ(ひまわりこども園)
給食委員会	1グループ(児童部門)		

評価者からのコメント 5発表後5分間講評(計60分間)

～5分休憩～

高齢

17:40

第4事業部	2グループ(さざんか園)	第5事業部	3グループ(南天園)
第8事業部	2グループ(西始良ほほえみ)	第12事業部	1グループ(特養さざんか)
給食委員会	1グループ(高齢部門)		

評価者からのコメント 5発表後5分間講評(計55分間)

～5分休憩～

障害

18:40

第3事業部	2グループ(虹の家)
第7事業部	2グループ(あじさい園)

評価者からのコメント 4発表後5分間講評(計25分間)

3.) 閉会挨拶 19:05

中間発表報告会タイムスケジュール

No.	事業所名	題目内容	ページ	時間
児 童				
1	第1事業部 建昌保育園	姿勢を正す体づくり	P2	5分
2	第1事業部 建昌保育園	幼保小の学びのつながりを意識した聞く態度と姿勢の意識	P3	5分
3	第2事業部 建昌菜の花保育園	感覚過敏のある子どもへの支援 ～食事に視点をあてて～	P4	5分
4	第2事業部 建昌菜の花保育園	1歳児クラスの言語発達の理解 ～個人差を捉えた考察～	P5	5分
5	第6事業部 こざく保育園	落ち着いた園生活を送りには ～静と動を意識した手立ての有効性～	P6	5分
17時00分	評価者からのコメント (5分間)			5分
6	第6事業部 こざく保育園	保護者支援について	P7	5分
7	第10事業部 つぼみ保育園	肌と環境の関係 ～スキンケアの取り組みとその効果～	P8	5分
8	第11事業部 ひまわりこども園	西始良地区の子育て支援の拠点になろう!! ～地域連携の充実と役割を考える～	P9	5分
9	第9事業部 児童クラブ	体幹を鍛えてより楽しく遊ぶために ～サーキット運動を通して～	P10	5分
10	給食委員会	保護者にもっと食育の大切さを知ってもらいたい ～家庭をまるごと食育支援～	P11	5分
17時30分	評価者からのコメント (5分間)			5分
～休憩5分間～				
高 齢				
1	第4事業部 さざんか園 通所介護	コスト意識と効率化 ～個々の意識改革による財政健全化への取組み～	P13	5分
2	第4事業部 小規模多機能ホームさざんか	5S活動(綺麗な施設) ～財政健全化を目指して～	P14	5分
3	第5事業部 養護老人ホーム南天園	コミュニケーションによる利用者へのアプローチ ～ユマニチュードを取り入れながら～	P15	5分
4	第5事業部 養護老人ホーム南天園	傾眠傾向が強い方への働きかけ ～日中の覚醒状態の改善～	P16	5分
5	第5事業部 養護老人ホーム南天園	ヘルパーステーションへ皆で行こう ～事業所移転後のみんなの変化～	P17	5分
18時05分	評価者からのコメント (5分間)			5分
6	第8事業部 ほほえみ(にこさ)	ヒヤリ・ハットを利用して事故を防ぐには? ～ヒヤリ・ハットへの意識を高めよう～	P18	5分
7	第8事業部 ほほえみ(ゆくさ)	薬にたよらず その人らしさを考える ～眠剤の服用を減らし、寄り添う支援～	P19	5分
8	第12事業部 特養さざんか園	気持ちよく眠れるためには ～眠りスキャンのデータを元に、心地よい睡眠を目指す～	P20	5分
9	給食委員会	栄養士不在施設での食事作りにおける栄養士等の介入について ～小規模多機能ホームさざんかにおいて～	P21	5分
18時30分	評価者からのコメント (5分間)			5分
～休憩5分間～				
障 害				
1	第3事業部 児童発達支援センター	発達を支援する① ～先生の変化=子供の変化～	P23	5分
2	第3事業部 児童発達支援センター	子どもの言語活動に視点をあてた取り組み ～Aさんの意思表出の向上を目指して～	P24	5分
3	第7事業部 あじさい園	地域福祉への取り組み ～ネットワークの構築を目指して～	P25	5分
4	第7事業部 あじさい園	私の場所を求めて ～安心できる場所はどこ!?～	P26	5分
19時00分	評価者からのコメント (5分間)			5分
19時05分	閉会挨拶			

児童部門（10テーマ発表）

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. 建昌保育園 | ▶2テーマ |
| 2. 建昌菜の花保育園 | ▶2テーマ |
| 3. 建昌こぎく保育園 | ▶2テーマ |
| 4. 建昌つぼみ保育園 | ▶1テーマ |
| 5. ひまわりこども園 | ▶1テーマ |
| 6. 児童クラブ風の子・にしあいら | ▶1テーマ |
| 7. 給食委員会（児童） | ▶1テーマ |

幼保小の学びのつながりを意識した
聴く態度と姿勢の育成
～聴く態度の育成につながる姿勢とそのため体のづくりに着目して～

□事業所名 【第一事業部】
□発表者 【田代 彩華】
□パワーポイント【藤山 りん】

1) 研究の目的

小学校に入学した卒園児が45分間の授業に集中して取り組めるようにする。



そのために保育園でどのような取組をしていけばよいかを明らかにしたい。

〈発達段階に応じた立腰〉

聴く姿勢	活動	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
1 かかとを揃えて立つ	運動前に	○			
2 お山座りで背筋を伸ばす	運動前に	○	○		
3 椅子に座る	歌う	○	○	○	
4 机ありで椅子に座る	文字を書く	○	○	○	○

2) 研究仮説

「立腰教育」の導入 → 「腰骨を立てる」

2歳未満児(0～1歳児)

意図的に体を動かす活動を取り入れることで体幹を高められるのではないかと。
(きちんとお座りのできる子どもに)

「立腰教育」の導入 → 「腰骨を立てる」

2歳以上児(2～5歳児)

発達段階に応じて「聴く姿勢」について継続した取組を行えば、聴く態度も高まるのではないかと。

3) 研究方法

2歳未満児(0～1歳児)

足腰を鍛えていくことが大切
踏み台をクラスに設置し、機会をとらえて上り下りする活動を多く取り入れるようにする。

園児交流や行事の際にできるだけ自分で階段の上り下りができるように、保育者が補助しながら行う。
これらの様子を見守りながら記録にとり、体幹にどのように結びついているかを観察する。



② 2歳以上児(2～5歳児)

2歳児

朝の会、給食、帰りの会の挨拶のとき、背筋をしっかり伸ばしかかどをつけるように声かけを行った。

3歳児

椅子を使用し、正しい勢が1分間できることを目標に声かけを行った。

4歳児

着席するとき(牛乳・配膳・給食・おやつ・話を聴くとき)にしっかり足の裏を床につけること、膝同士を付けること、手を膝に置くこと、背筋を伸ばすことについて声かけを行った。

5歳児

牛乳や活動の切り替えのときの黙想の際に椅子に座った状態で正しい姿勢ができるように声かけを行った。
園児交流等の全体が活動する際に体操座りができるように声かけを行った。



4) 結果あるいは結果予想

聴くことのできる子ども

指示をしっかり聞いて活動することの大切さやよさを感じさせる

正しい姿勢(目と耳と心)で人の話を聞くことの大切さやよさを感じさせる。



しっかりとした姿勢(目と耳と心)で聞くことのできたよさを感じさせる。

机や椅子に座って活動する経験を少しずつさせる。

5) 進捗状況と課題

① 2歳未満児(0～1歳児)

・実践項目については職員で取り組んだが、実践する前に担当職員での連携が十分でなかった。

② 2歳以上児(2～5歳児)

・正しい姿勢を長く保つことができない。また、姿勢が崩れるのはいつも同じ子である。その子どもたちへの体幹強化や支援を考えていく必要がある。

《参考文献3冊以上》

・子育ての秘伝 石橋 富知子
・立腰教育入門 森 信三

感覚過敏のある子どもへの支援 ～食事に視点をあてて～

- 事業所名 【 建昌菜の花保育園 】
- 発表者 【 竹元 友加里 】
- パワーポイント【 石川 賞一 】

1) 研究の目的

菜の花保育園には、感覚過敏のある子どもがいる。実年齢は4歳だが2歳児クラスに在籍している。特定のおもちゃや人に触れることはできるが、食べ物やスプーンを触ったり握ったりすることが難しい状況である。更に、自分で食べようとする意欲が見られない。保護者の要望として、自らスプーンを持って食べられるようになることを目標の1つとされており、どのような支援の方法があるのか探るため、このテーマを設定した。

2) 研究仮説

・全身遊び・感覚遊びを取り入れた個別支援



・『触れる・握る』の確立



・自分で食べるようとする意欲が出てくる

3) 研究方法

- ①実態把握
- ②チェックリストの作成
- ③感覚遊び
- ④研修および研鑽
- ⑤療育施設との連携・モニタリング

4) 結果あるいは結果予想

指先や全身を使った遊びをすることにより『触れる、握る』という動作が出来るようになり、食事も自分で食べようとする欲求が出てくるのではないかと予想される。

5) 進捗状況と課題

《進捗状況》

- ・全身運動・感覚遊びを取り入れた個別支援。
- ・保護者・療育機関との情報共有を今後も続けていく。

《課題》

・手づかみで食べられる物が増えてきたが、スプーンで食べるまでの発達段階に達していない為、発達年齢に応じた支援方法を増やしていきたい。

《参考文献3冊以上》

- ・発達の扉 子どもの発達の道すじ(白石 正久 著)
- ・保育者が知っておきたい発達が気になる子の感覚統合(木村 順 著)
- ・ココロとカラダほぐしあそび 発達の気になる子と一緒に(二宮 信一 著)

1 歳児クラスの言語発達の理解

～個人差を捉えた考察～

- 事業所名 【 菜の花保育園 】
- 発表者 【 恒吉 美哉 】
- パワーポイント【 川辺 未来 】

1) 研究の目的

今日では、少子化に伴う人間関係の希薄、テレビなどの情報環境の影響により感情表現が乏しく、視線があわないう乳児が増えている。まだ意味をもったことばをもたない乳幼児期、ことばを育てるには、自分の世話をしてくれる特定の人との親密な交わりを通してことばを獲得していくといえる。そこで、職員が言語発達の理解を深め、絵本の読み聞かせや手遊びを通して、一人ひとりのことばの発達段階を知り、より良い援助・支援に繋がると考え、このテーマを設定した。

2) 研究仮説

・年齢に応じた、絵本の読み聞かせや手遊びの実施。



・保育士の音声模倣をし、簡単なことばを発する。



・ことばによるコミュニケーションをとろうとする。

3) 研究方法

- ①子どもの実態把握
- ②チェックリストのリストの作成
- ③仮説の設定
- ④計画・実施
- ⑤子どもの言葉の発達のチェック
- ⑥結果・考察

4) 結果あるいは結果予想

絵本の読み聞かせや手遊びを行うことにより聞いたことばを模倣しようとする。また、普段の生活でもお友達とコミュニケーションの手段としてことばを発するようになるのではないかと予想される。

5) 進捗状況と課題

《進捗状況》

- ・手遊び
- ・絵本の読み聞かせ

《課題》

・歌遊び絵本や発達年齢に応じた絵本の読み聞かせを行うことで、「ママ」「ブーブー」以外にも、色や乗り物、果物などに興味をもち言葉として発するようになった。より多くの言葉の発達を促すために、より多くの絵本や手遊びを行うとともに、年齢にあわせた話し方、速さ、声の高低にも配慮していく必要があると考える。

《参考文献3冊以上》

- ・子どもことばの世界 / 今井和子 著
- ・育ちの理解と指導計画 / 今井和子 監修
- ・保育と絵本～発達の進捗にそった絵本の選び方～ / 瀧澤 著
- ・根っこを育てる乳児保育 / 樋口正春 著
- ・保育サポートブック 0、1歳児クラスの教育
- ・保育所保育指針を読む

落ち着いた園生活を送るには ～静と動を意識した手立ての有効性～

- 事業所名 【第6事業部 建昌こぎく保育園】
- 発表者 【 森 悠希 】
- パワーポイント【 古園 智弘 】

1) 研究の目的

集中力が続かない
落ち着きがない
人の話を最後まで聞けない



落ち着いたクラスになるためには？

2) 研究仮説

静と動を意識した手立てとして活動前の黙想



心を落ち着かせて集中力がアップ！！



話を最後まで聞き、落ち着いた園生活ができる

3) 研究方法

- ①実態把握
- ②原因の探求・改善方法の考察
- ③活動の実施
- ④まとめ・考察

4) 結果あるいは結果予想

- ・活動前の黙想を行うことで・・・
心を落ち着かせて活動に静かに入れ、集中力が増し、話をしっかり聞けるのではないか。
- ・出来たことをほめることで・・・
子どもの自信につながり、次も褒められたいという気持ちが生まれ、習慣づけるのではないか。

5) 進捗状況と課題

進捗状況

・活動前に黙想をすることでスムーズに活動に入れるようになってきている。
しかし、黙想の意味を理解しているわけではなく、ただやらされている状況になっている。

・また活動外で、室内を走ったりする落ち着きのない姿があった。

課題

・なんのために黙想をするのかをもう一度伝え、引き続き黙想を続けていく。
落ち着いた音楽を聴いたり絵本の読み聞かせを手立てとして取り入れる。
・静と動の動の部分の手立てが十分でないため、運動や戸外遊びを多く取り入れ、静と動のメリハリを強くしていく。

≪参考文献3冊以上≫

- ・豊岡教育委員会だより 32号
- ・生徒の「落ち着き」を育む教育活動の試み 静の時間の取り組み「黙想」「黙働」の実践を通して

保護者支援について

- 事業所部【第6事業部】
- 事業所名【建昌こぎく保育園】

1) 研究の目的

毎年、新入園児の保護者から子供の成長に関して不安の声が聞かれる。そこで日頃、保護者がどんなことに悩み、保育士に何を求めているのかを考えた。

また、保育所保育指針の改定に伴い、再度保護者支援とは何かを考え、きちんと寄り添うにはどのようにしたら良いかと思い、設定理由とした。

2) 研究仮説

保護者の悩みとは何かを考える



保護者の声を基に手立てを考え、実践する



保護者の悩みが解決できるのではないかと、予想する。

3) 研究方法

- ① 実態把握(アンケート)
- ② アンケート集計・改善方法の考察
- ③ 活動の実施(おたよりの配布、連絡帳の活用)
- ④ 活動後の実態把握(再度アンケート、集計)
- ⑤ まとめ・考察



4) 結果あるいは結果予想

おたよりを配布・連絡帳の活用をしたことで・・・

- ・ 今後の子育てのヒントになるのではないかと、予想する。
- ・ 子育てに関する悩みが減り、保護者の養育力が向上するのではないかと、予想する。

5) 進捗状況と課題

<進捗状況>

手立てを行い、保護者の悩みを少しずつ解決したことによって、喜びの声が聞かれたり、感謝される現状が見られている。

<課題>

しかし、なかなか悩みが解決されない保護者に対して、今後どのような手立てをおこなっていくべきか、考えていく必要がある。

<参考文献>

- ・ 0歳児から5歳児 行動の意味とその対応 今井 和子
- ・ 保育所保育指針解説書 フレーベル館

肌と環境の関係

～スキンケアの取り組みとその効果～

- 事業所名 【建昌つぼみ保育園】
- 発表者 【濱田安恵】
- パワーポイント【林 裕美】

1) 研究の目的

【経緯】

最近、アトピー性皮膚炎や乾燥肌で子どもたちの肌が気になっていた。

遊びや食事の途中で痒さが増し、集中できなくなり、機嫌が悪くなったり、物事が進まなくなった子に、手助けできたらと思った。

2) 研究仮説

- ◎ 肌のトラブルで機嫌が悪くなったり、食事が進まなかったり・・・というのがあるのではないか。
これを少しでも解消し、過ごしやすいするためには、環境などをより良く研究し、保護者へいいアドバイスをしたら肌のトラブルも減り、過ごしやすいくなるのではないか。

3) 研究方法

- 保護者にアンケート
 - 子どもの肌で気になること
 - ・乾燥
 - ・汗疹
 - ・その他
- ◎クラスで特に気になる子をピックアップ
 - ・全員毎日シャワーをする
 - ・ピックアップした子については経過を見る
 - ・気になるところを写真で記録し、支援をし、1、2ヶ月後再度記録をする
- ◎室内環境を良くする
 - 環境チェックシートを作成し、週に2回チェックする

4) 結果あるいは結果予想

汗疹

- 毎日シャワーをすることでほぼ改善される
- ・ガーゼタオルの使用
- ・洗剤を刺激の少ないものにかえる

乾燥

- 室内の湿度に気を付け常に50～60%を保つ
- ・マッサージを多くする
- ・家庭で保湿剤を使うように勧め、確認する

5) 進捗状況と課題

- ◎乾燥について
 - これからが季節なので保護者に協力をもらいながら確認の取り方を考える

＜参考文献3冊以上＞

- ・アトピー&アレルギー大百科……………ベネッセコーポレーション
- ・赤ちゃんの肌トラブルを防ぐ本……………監修:山本一哉
- ・園・学校で見られる子どもの病氣百科……………監修:内海裕美
- ・乳幼児のスキンケア……………財団法人 母子衛生研究会

西始良地区の子育て支援の拠点になろう！！
～地域連携の充実と役割を考える～

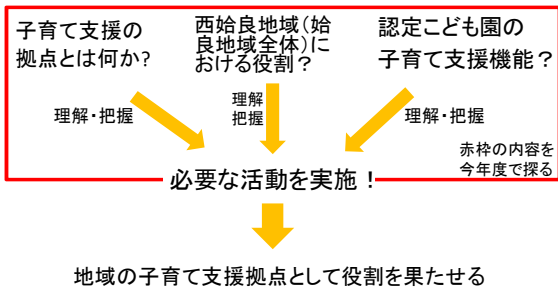
- 事業所名 【 ひまわりこども園 】
- 発表者 【山王 節子】
- パワーポイント【大森 千代美】

1) 研究の目的

【経緯 何故この研究に取り組んだのか】

- ・認定こども園は「子育て支援」が必須になっている。認定こども園の新規開設に伴い、改めて地域における子育て支援機能の充実を図っていかなければいけないと考えた
- ・西始良地区で初めての未就学児通園施設であるが、地域における我々の役割とは何なのか？

2) 研究仮説



3) 研究方法

- ・入園している保護者へのアプローチと理解
 - 書式を作成し保護者視点で保護者支援の方法を抽出
 - 保護者理事会で直接意見を抽出
- ・子育て支援活動の計画と実施
 - 4・5月で実施計画を検討。6月の下旬より月2回で実施
- ・子育て支援に参加している保護者との交流
 - 支援の前半の時間と終了時に保護者と関わりを持ち意見の抽出
 - 支援参加者と座談会を実施し、意見交換
- ・地域との関わりを持つ(地域行事参加と聞き取り)
 - 地域の行事や清掃活動に参加(夏祭りは中止)
 - 各自治会長へ訪問。園の認知度の向上を図る。アンケートの実施予定
- ・園内にて勉強会の実施
 - 参考文献の勉強会と教育・保育要領の勉強会(主に子育て支援とは？保護者ニーズとは？)

4) 結果あるいは結果予想

- ・地域のニーズが理解できる
- ・認定こども園としての役割を理解できる
- ・地域における認定こども園(自園)としての役割を果たすための行動を起こすことが出来る
- ・地域の子育て支援拠点になる

5) 進捗状況と課題

- 【進捗状況】
- ・子育て支援の実施
 - (10月27日現在9回実施。登録者数27世帯、利用延べ人数こども89名、大人52名)
 - ・子育て支援利用者との意見交換会実施(6世帯参加)
 - ・地域の行事参加(奉仕作業参加。夏祭りは天候不良のため中止)
 - ・入園している家庭の保護者からの意見抽出(保護者会にて意見交換時間を実施/2回)
 - ・書式を作成、保護者視点の気づきの抽出
- 【課題】
- ・地域に出る、知ってもらうことの難しさ(ただ宣伝するだけではダメ)
 - ・地域のニーズを知る難しさ(地域に何が必要なのか?)
 - ・子育て支援の意味、役割の理解(保護者によって求めているものが違う)
 - ・入園家庭の保護者に対する子育て支援という考え方の整理
- 《参考文献3冊以上》
- ・地域子育て支援拠点ガイドラインの手引き 著: 渡辺誠一郎・橋本真紀
 - ・NPプログラム「完璧な親なんじゃない!」10年の歩み 著: 三沢直子と河津美奈
 - ・ひとり親家庭の子育て 著: 藤田祥彦
 - ・0・1・2歳児の子育て支援 著: こどもの媒介保護施設
 - ・子どもと親が行きたくなる園 著: 寺田博太郎・深野静子・塩川寿平・塩川寿一・深谷秀子・山口学世・佐々木正美(監修)
 - ・子ども子育て支援制度 利用者支援の手引き 著: 始良 聖峰(著・監修) 橋本真紀(著・編集)

体幹を鍛えてより楽しく遊ぶために

～サーキット運動を通して～

- 事業所名 【児童クラブ】
- 発表者 【窪田美由子】
- パワーポイント【久保蘭加代子】

1) 研究目的

サーキット運動による体幹強化

より遊びの
楽しさが広がる

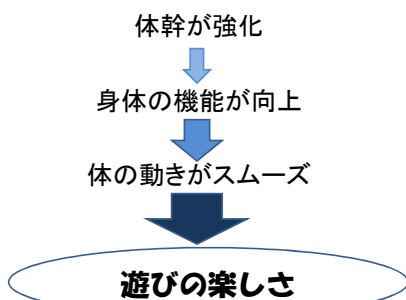
〈前回の取り組み〉

- ・姿勢の保持
- ・体が動かしやすくなる

継続していくと...

- ・自発的に体を動かす
- ・体力の向上

2) 研究仮説



3) 研究方法

- (1) 実態把握 「遊びについてのアンケート」「児童への聞き取り」
- (2) 体幹強化の取り組み(サーキット運動・夏休み)
 - ①両足ジャンプ
 - ②鉄棒ぶら下がり
 - ③背伸び運動
 - ④ボール叩きジャンプ
 - ⑤静止バランス
 - ⑥綱引き・雑巾がけ(夏休み)
- (3) 体力測定(2年生対象・3回実施)
 - ・立ち幅跳び
 - ・ソフトボール投げ
 - ・20M走

4) 結果あるいは結果予想

・サーキット運動を続けていくと.....

- ・体が動かしやすい
- ・投げる力・走る力の向上
- ・体力測定の数値が向上
- ・遊びのアンケートの変化



5) 進捗状況と課題

〈進捗状況〉

- ・アンケートの実施、集計(6月・11月)
- ・サーキット運動
- ・体力測定実施(6・9・11月)
- ・子ども達への聞き取り(9・11月)

〈課題〉

- ・これまで続けてきたサーキット運動をさらに確かなサーキット運動へと繋げていくための取り組みをしていくこと

〈参考文献3冊以上〉

- ・子どもの運動神経はじゃんけんゲームでみるみる育つ(東根明人著)
- ・こどもと姿勢研究所(「10秒で分かる!このページのまとめ」)
- ・「できる」を増やす体遊び 窪田 哲

保護者にもっと食育の大切さを知ってもらいたい
～家庭をまるごと食育支援～

□事業所名 【給食委員会】
□発表者 【上之園 かす美】
□パワーポイント【稲岡 瑞貴】

1) 研究の目的

【経緯 何故この研究に取り組んだのか】

・現在、建昌福祉会の各保育園で、子ども達に向けての、「食育」を月に1回程度行っています。

子どもたちに「食」の大切さが、伝わっていても子どもたちの食生活は、家庭の環境や、食生活に左右されるため、家庭をまるごと、「食育支援」する必要があると考え、実践に取り組みました。

2) 研究仮説

子どもたちに食育を行う

子どもたちが「食」に興味を持つ

毎日の食事の内容や正しい生活習慣などは、保護者の協力が必要！

保育園から、保護者へ食育の発信を行う

親子で食育の大切さを知り、規則正しい生活習慣が身につくのではないか

3) 研究方法

・毎月テーマを決めて、各園で「給食だより」を発行したり、掲示物を作成して発信する。

・「給食だより」や掲示物を実際に見てもらえたか、数値化出来るような物を作り、結果を見ていく。

4) 結果あるいは結果予想

- ・親子で、食育に興味をもてるようになる
- ・規則正しい生活習慣が身につく

5) 進捗状況と課題

【進捗状況】

- ・保護者へアンケートを行い、結果をまとめた。
- ・アンケート結果で気になった項目について、「給食だより」「献立表」「掲示物」を通して、保護者向けに食育を進めている。

- ・規則正しい生活習慣
- ・朝食の大切さ
- ・孤食
- ・旬の食材について
- ・おやつ選び方と噛むことについて

参考文献（3冊以上）

- ・いただきます ごちそうさま *メイト
- ・Pri Pri *世界文化社
- ・早起き 早寝 朝ごはん *女子栄養大学 副学長 香川晴雄
東京ベイ・浦安市川センター センター長 神山 潤 共著

高齢部門（9テーマ発表）

- | | |
|-------------------|--------|
| 1. 在宅ケアセンターさざんか園 | ▶ 2テーマ |
| 2. 養護老人ホーム南天園 | ▶ 3テーマ |
| 3. グループホーム西始良ほほえみ | ▶ 2テーマ |
| 4. 特別養護老人ホームさざんか園 | ▶ 1テーマ |
| 5. 給食委員会（高齢） | ▶ 1テーマ |

コスト意識と効率化

～個々の意識改革による財政健全化への取組み～

- 事業所名 【通所介護事業所】
- 発表者 【木下 弥生】
- パワーポイント【有馬 昌伸】

1) 研究の目的

今年度法人全体目標

着目! 「財政健全化」

日常業務内での「ムリ・ムダ・ムラ」を省く、「コスト意識」を持つ

↓

職員の方向性・協調性 **UP**

2) 研究の仮説

コスト意識を持ち、職員の方向性・協調性

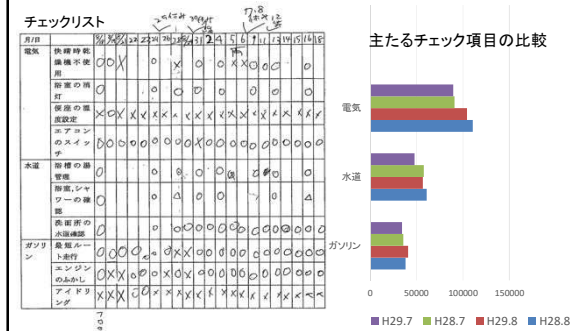
期待出来る事柄を仮説とする

- ・ コスト軽減
 - ・ 効率の良い行動パターン重要性
 - ・ 行動パターンの統一性
- 仮説**

3) 研究方法

1. 仮設の設定
2. チェック項目の洗い出し
3. チェックシートの作成
4. データの整理と検証
5. 結論と考察

4) 結果あるいは結果予想



5) 進捗状況と課題

進捗状況

全体的に軽減されている **意識改革の成果**

課題

電気・水道・ガソリン + その他(物品購入時等)

コスト軽減となる項目についての追加検討しております

＜参考文庫＞

- ・ 明るいコストダウン 片桐 明
- ・ 世界一分かりやすい在庫削減の授業 若井 吉樹
- ・ 最後のコスト削減 栗原 仁

5S活動(綺麗な施設)

～財政健全化を目指して～

- 事業所名 【小規模多機能ホームさざんか】
- 発表者 【岩倉 典子】
- パワーポイント【小原 あゆみ】

1) 研究の目的

【経緯 何故この研究に取り組んだのか】

- ・溢れ返る物の多さに違和を感じ、「無駄な物を買って使わずにいるのではないか」と推測。
- ・長年「今までこうして来たから」、物が多いことが当たり前になっていた。
- ・物を可能な限り整理及び処分することで、事業所及び財政の健全化が図れるかを検証することを目的とする。

2) 研究仮説

- ・乱雑な仕事場では、事故が起こりやすくなる。
- ・必要なものがすぐに見つからないのでは、仕事の効率が下がる。
- ・物があふれている職場では掃除が行き届かずほこりもたまりやすい。
- ・乱雑すぎる場所はやる気を低下させる。
- ・5S活動をしっかり行っていれば職場も綺麗になって仕事の効率が上がり、健康的になる。
- ・仕事の効率が上がれば事業所の利益もアップする。

3) 研究方法

- ①現状把握
 - ▶どれが必要で、どれが不要なのかを見極める。
- ②原因の究明
 - ▶過剰在庫や保管期限を再確認する。
- ③方法
 - ▶保管場所、方法、本当に必要かの検討。

4) 結果あるいは結果予想

<結果>

▶不要品を処分し空間を有効に使うことで、利用者様の動線を広げたり、各部屋にポータブルトイレの収納が出来た。

▶物を厳選して減らしたことで、間違いが減り注意されることが減った。

<希望>

▶誰が見ても片付いている空間。

5) 進捗状況と課題

▶不要品の処分保留分については、チェックを重ねて年内を目処に結果を出す。

▶不要品な備品については系列他施設での再利用を優先し、私物は一旦持ち帰る。

▶常に整頓の意識を持ち、利用者様が快適に過ごせる空間作りを進める。

《参考文献3冊以上》

- ・図解 トヨタの片づけ (株)OITソリューションズ
- ・すっきり! 幸せ簡単片づけ術 ごんおばちやま
- ・片づけられる人は、うまくいく。 中谷彰宏

コミュニケーションによる利用者へのアプローチ

～ユマニチュードを取り入れながら～

□事業所名【第5事業部 養護老人ホーム南園Ⅰ】

□発表者 【比嘉 誉】

□パワーポイント【竹山 直美】

1) 研究の目的

利用者が嫌がっているとみられる行動
(寝る時や起きる時又はトイレに行かれる時)

- | | |
|--------|----------|
| ・大声 | □ユマニチュード |
| ・手を上げる | ・見る |
| ・足で蹴る | ・話す |
| ・爪を立てる | ・触れる |

利用者が嫌がっているとみられる行動を無くす

2) 研究仮説

今までの支援 + ユマニチュード

利用者へのアプローチ

嫌がっているとみられる行動を無くす

毎日を平穏で普通の生活が出来る
(QOLの向上)

3) 研究方法

- 職員でユマニチュードの勉強をする。
- 対象者のチェックリスト作成し、データを取る

【対象者①】 Aさん 106歳 女性 要介護5
全介助 意思疎通が困難

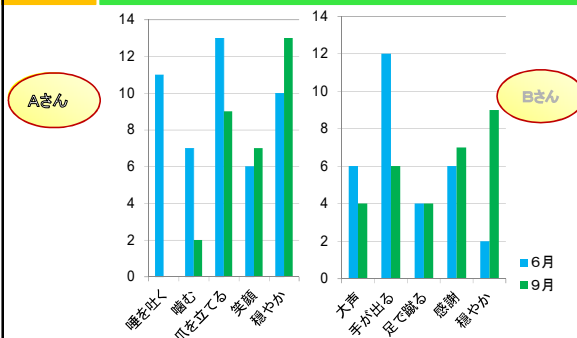
【対象者②】 Bさん 105歳 女性 要介護4
同じ言葉を繰り返す 食事は自分で出来る 意思疎通が困難

【データ】

- 特に嫌がっていると見られる行動がある起床時と就寝時の2回
- それぞれ良く見られる行動を5項目に分類
- 6月と9月の2週間(ユマニチュードを取り入れる前後)

- ユマニチュードを取り入れる前後の比較

4) 結果あるいは結果予想



5) 進捗状況と課題

【進捗状況】

- 2回のデータ分析。
- 11月に2週間データを取る。
- 勉強会の実施。

【課題】

- 対象者が、新たな支援方法の要因で、嫌がっているとされる行動が、本当に減ったのか？

- Bさんが、最近嫌がる行動が見られるのは、他の要因では？

＜参考文献3冊以上＞

- ユマニチュード入門 本田美和子 イウ・ジネスト ロゼット・マレスコッティ (医学書院)
- 認知症の家族を介護するときに読む本 高室成幸 (自由国民社)
- 認知症高齢者と介護者支援 中山慎吾 (法律文化社)

傾眠傾向が強い方への働きかけ

日中の覚醒状態の改善

- 事業所名【第5事業部 デイサービスセンター南天園】
- 発表者 【新盛 博樹】
- パワーポイント【西脇 めぐみ】

1) 研究の目的

【経緯 何故この研究に取り組んだのか】

デイサービスに来所される中に覚醒状態が悪くレクリエーションなどに取組まれずウトウトされる利用者がいらっしまった。この利用者様は食事や排泄に向かわれるなど自力で出来ており特に食事などは自発的にされておられ覚醒状態もよい。

- ・何故、食事などでは自発的なのにレクリエーション等では覚醒状態が悪いのか
- ・どのようなことなら自発的に取り組んで頂けるのか

ということから今回の研究目的としました。

2) 研究仮説

行なうレクリエーションを変えたり、声掛けのしかたや利用者の環境(デイサービス内での座席など)を行なう。

↓ その結果

日中の覚醒状態が改善され

↓ 続けていく事で

今までされなかったことにも自発的に取り組まれるようになるのではないかと？
以上の仮説をたてました。

3) 研究方法

覚醒状態が特に悪い利用者様1名を対象者とし、日中の覚醒状態をデータを取った。

- ・デイサービス内での座席(来所毎)
- ・行なうレクリエーションの種類
- ・声掛けの頻度

等を変えてその時の様子を観察し覚醒状態を調べた。

4) 結果あるいは結果予想

覚醒状態が悪い(傾眠傾向にある)根本的な理由は何なのか。

現状で

- ・行なうレクリエーションの内容で取組み方が異なる。
- ・取り組む中で自発的に散歩などに行かれようとされるようになれ始めた。

等の情報を得られたこの情報を職員間で共有することで今後より自発的な活動を促すサービスの提供が出来るのではないかと。

5) 進捗状況と課題

進捗状況としては、利用者様のデータを取り

- ・どのようなレクリエーションや取組みなら自発的に取組まれるのか
 - ・反対にどのようなレクリエーションは取組みが悪いのか
- 上記についての確認を行い職員間で共有を行っている状況

課題としてあるのは

- ・デイサービスの時間外(自宅にいる時等)の様子を職員自身で観察できていないこと。

《参考文献3冊以上》

- ・睡眠と脳の科学 著:古賀 良彦

ヘルパーステーションへ皆で行こう

～事務所移転後のみんなの変化～

□事業所名 【訪問介護さざんか園】

□発表者 【南原 加代子】

□パワーポイント【尾堂 香代子】

1) 研究の目的

平成28年12月以降、ヒヤリハット増加

≪要因≫

・事務所の移転
(職員や利用者宅から事務所が遠くなった)



・ヘルパーさんが事務所に来る回数が減った



・情報の共有が難しくなった



・迅速な連携がとれなかった

2) 研究仮説

◎ヘルパーさんが事務所に来る



◎ヒヤリハットが改善するのではないか

3) 研究方法

- 1、事務所内の環境整備を行う
- 2、ヘルパーさんへのアンケートをとる
- 3、事務所に来た回数を記録する
- 4、情報提供や報告がしやすい雰囲気を作る
- 5、ヒヤリハットや苦情の件数の増減を調べる

4) 結果あるいは結果予想

1、環境整備をしたことでヘルパーさんが来やすくなった

2、船津の事務所に慣れてきたことで、来る回数が4月以降、増えてきた

3、ヒヤリハットが4月以降5件から1件に減った

5) 進捗状況と課題

進捗状況

ヘルパーが事務所に来た記録を継続中

課題

ヘルパーの人員不足のため、支援に追われ事務所に
来る回数や時間が取れなくなっている

≪参考文献3冊以上≫

- ・介護専門職の総合情報誌 おはよう21
- ・毎朝の学び 月刊朝礼
- ・会社は環境整備で9割変わる

薬にたよらず その人らしさを考える

サブタイトル【眠剤の服用を減らし、寄り添う支援】

- 事業所部【第8事業部】
- 事業所名【G. H西始良ほほえみ】

1) 研究の目的

認知症により、生活のリズム・性格の変化がみられ、多くの薬を服用されている利用者様。



少しでも服用薬を減らすことで、その人らしくいきいきと過ごしていただきたい。

2) 研究仮説

眠剤(睡眠導入剤)の服用を徐々に減らし、薬にたよらず眠りにつくことで、生活リズムに変化がみられる。



眠剤を減らしたことにより現れる生活リズム・性格の変化に、職員が寄り添う。



服用薬の軽減により、本来のその人らしさを見出せる。

3) 研究方法

眠剤の服用を

- ①毎日服用(これまでどおり)
- ②Y様の調子、意思により服用
- ③服用せず

以上の三段階をそれぞれ一ヶ月ずつ(6月~8月) 試行し、生活リズムをチェックシートへ記入する。
(かかりつけ医師に連絡、相談のうえ)

4) 結果あるいは結果予想

【結果】

- ・眠剤を徐々に減らすことで、服用なしでも穏やかに眠りにつけることが多くなった。
- ・生活リズム、体調、気分の変化がみられた。

【結果予想】

- ・服用薬が減ることで、体への負担が減り、いきいきと過ごせる時間が増える。

5) 進捗状況と課題

【進捗状況】

- ・現在は、眠剤を服用せず、支援を続けている。

【課題】

- ・日により体調や気分が異なるため、Y様の状態を見ながら支援、対応していく必要がある。

＜参考文献3冊以上＞

- ・よくわかる認知症と薬のQ&A 徳田正武 (メディカ出版)
- ・睡眠薬中毒 内海聡 (PHP新書)
- ・睡眠薬の適性使用・休薬ガイドライン 三島和夫 (じほう)
- ・告白します、僕は多くの認知症患者を殺しました。 石黒伸 (現代書林)

ヒヤリ、ハットを利用して事故を防ぐには？

サブタイトル【ヒヤリ・ハットへの意識を高めよう】

- 事業所部【第8事業部】
- 事業所名【G. H西始良ほほえみ】

1) 研究の目的

ヒヤリ・ハットに対する意識の薄さを感じる。



今までヒヤリ・ハットを記入するだけで終わっていた。



ヒヤリ・ハットの質を高めて事故の
予防に役立てたい。

2) 研究仮説

書くだけで終わっていたヒヤリ・ハットの内容を見直したり、ヒヤリ・ハットをどのように利用するのか考える。



ヒヤリ・ハットへの意識が変わり、
事故防止への意識が変わる。



危険察知への視野が広くなり事故予防に繋がる。

3) 研究方法

- ・「ヒヤリ・ハット」とは何か、皆で確認する。
- ・ヒヤリ・ハットの内容を確認し、どのような事故になる可能性があるのか、それを予防する為にはどうすれば良いのかを話し合う。
- ・服薬のダブルチェックが出来なかった回数をチェックする。
(昨年まで年に1、2回誤薬が発生していた為)

4) 結果あるいは結果予想

【結果】

- ・現在は誤薬は起きていない。

【結果予想】

- ・ヒヤリ・ハットの内容の質が高まる。
- ・職員の危険察知能力が向上する。
- ・事故が減少する。

5) 進捗状況と課題

【進捗状況】

- ・服薬時のダブルチェック出来なかった回数をチェックしている。
- ・ヒヤリ・ハットをとにかく書き出す。

【課題】

- ・昨年までの事故件数が確認出来ない為、事故件数が減少したかどうか実証できる方法が考えつかない。
- ・上記の事も含め、結果をどう分かりやすく表せばいいか。

《参考文献3冊以上》

- ・介護の事故、トラブルを防ぐ70のポイント
- ・介護現場のリスクマネジメント施設編【ヒヤリハットをそのままにしない】
- ・介護現場のヒヤリ・ハットとクレーム対応

気持ちよく眠れるためには

～眠りスキヤンのデータを元に
心地よい睡眠を目指す～



【特別養護老人ホームさざんか園】

□発表者 【前川 哲也】

□パワーポイント【森木 優太】

1) 研究の目的

眠りスキヤンを導入したことにより、入居者が1日ですどのくらい就寝しているのか、また入浴した日はよく眠れているのか等、データを元に入居者の寝つきを良くする方法を見出し、どのように変化があったのかを明らかにする。

2) 研究仮説

・体内時計をリセットして、寝つきが良くなるのではないかと。



3) 研究方法

- ・対象者 入居者
- ・期間 2017年6月～2017年12月
- ・研究方法
 - ・午前中に日光をあびることにより、どのくらい眠れているのかを調べる。
 - ・睡眠のデータと入浴や排泄などの生活リズムのデータの関連性を調べる。
 - ・入居者の気持ちを聞く。

4) 結果あるいは結果予想

・日光浴を取り入れる



- ・個人によって効果がある。(睡眠)
- ・入居前までの生活(睡眠の取り方)に近い状態に戻る。



5) 進捗状況と課題

～課題～

- ・どれだけの回数日光浴ができるか。
- ・日光浴に関心を示さない入居者に対して、ドライブなどの活動を実践する。
- ・入居者の入居前までの生活(睡眠の取り方)を把握する。

《参考文献》

- ・誰でも簡単にぐっすり眠れるようになる方法(白濱 龍太郎)
- ・スッキリした朝に変わる睡眠の本(梶尾 修身)
- ・快適睡眠のすすめ(堀 忠雄)

栄養士不在の高齢者事業所における 栄養士等の調理への介入について ～小規模多機能ホームさざんか園に於いて～

- 事業所名 【給食委員会 高齢・障害部門】
- 発表者 【中原 理恵】
- パワーポイント 【岩井田 浩美】

1) 研究の目的

【経緯 何故この研究に取り組んだのか】

栄養士不在の施設では、どのように献立をたて、調理をしているのか。調理担当者はどのような事に負担を感じ困っているのかに疑問を持ちました。

法人内の専門職である栄養士・調理師が介入する事により、それらの負担や不安を軽減できるのではないかと考え実施することにしました。

2) 研究仮説

- ・料理カードを活用することで、調理担当者の違いによる量や味のばらつきが少なくなる。
 - ・必要な量が明確になり、不要な買い物を避けることができるので、コスト削減になる。
- ↓
- ・調理担当者の不安や負担感が軽減される。

3) 研究方法

- ①介護職員へのアンケート及び聞き取りにより、困っている事を把握する。
- ②栄養士・調理師で料理カードを作成する。
* 料理カードには、一人分の食材と調味料の分量、及び作り方を記載する。
- ③実際に料理カードを活用して約2週間調理してもらう。
- ④アンケートや聞き取りにより評価と考察を行う。

南瓜の甘煮	
一材料	
南瓜……………80g	
砂糖……………5g	
薄口しょうゆ…3g	
だし汁……………適量	
一作り方	
1 南瓜を切る。	
2 鍋に南瓜を入れ、だし汁を南瓜にかぶるくらゐ入れる。	
3 砂糖を入れる。	
4 アルミホイルをかぶせて煮る。	
5 南瓜が柔らかくなったら醤油を加える。	

4) 結果あるいは結果予想

- ・調理担当者の違いによる、量や味のばらつきが少なくなる。
- ・不要な買い物を避けることができ、コスト削減に繋がる。
- ・調理担当者の不安や負担感が軽減される。

5) 進捗状況と課題

- ・介護職員へのアンケートと聞き取りを実施。
- ・主食、主菜、副菜、食材別に料理カードを作成中。
- ・介護職員へ料理カード活用の説明を行い、実施してもらう予定。

＜参考文献3冊以上＞

- ・日本人の食事摂取基準 2015年版 / 第一出版
- ・認知症高齢者グループホームにおける栄養士のかかわりとその必要性 / 明神千穂 他
- ・郷土の味 / 鹿児島県食生活改善推進員連絡協議会

障害部門（4テーマ発表）

1. 児童発達支援センター虹の家 ▶ 2テーマ

2. 障害福祉サービス事業所あじさい園 ▶ 2テーマ

発達を支援する①

～先生の変化^{いこ}＝子どもの変化～

□事業所名【 児童発達支援センター虹の家 】

□発表者 【 大木 淑恵 】

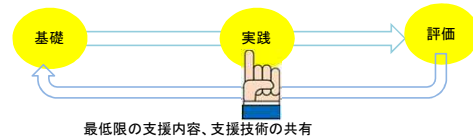
□パワーポイント【 中館 英郎 】

1) 研究の目的

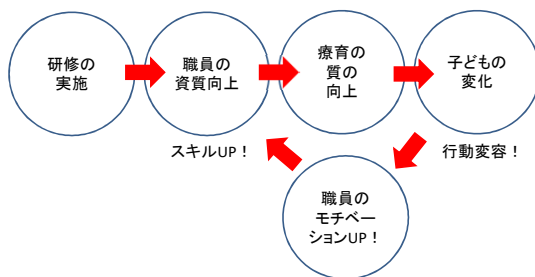
【経緯 何故この研究に取り組んだのか】

・センター開所3年目にあたり、発達支援センターとしての役割(「発達支援」「家族支援」「地域支援」)を強く求められている。

・支援者としての自立過程



2) 研究仮説



3) 研究方法

- ・職員研修の実施(月1回程度)
- ・クラスミーティング
- ・子どものアセスメント(4月、9月、2月)
→子どもの行動変容を見る
- ・職員自己チェック表(6月、11月、2月)
→職員の意識の変容を見る
- ・事業所のアセスメント(児童発達支援ガイドラインより)
→事業所における自己評価の変容を見る

4) 結果あるいは結果予想

職員の基礎を育てる

スキル
アップ



子どもが育つ
行動変容

社会性

しっかりと根をはって
丈夫な幹となり
大きな枝を広げましょう

5) 進捗状況と課題

- ・月1回の職員研修の実施
出来るだけ多くの職員が参加できる時間の設定
- ・クラスケース検討会の実施
「なぜそうしたか」を深める
- ・クラスミーティング方法の検討
時間内に端的に！支援内容の共有
- ・子どものアセスメント(4月、9月)
《参考文献3冊以上》
 - ・ステキを見つける保育・療育・子育て(著:近藤直子)
 - ・ていねいな子育てと保育(著:近藤直子)
 - ・ペアレントプログラムマニュアル(アスベ・エルデの会)

子どもの言語活動に視点をあてた取り組み

～Aさんの意思表示の向上を目指して～

- 事業所名 【放課後等デイサービス】
- 発表者 【堀口 浩】
- パワーポイント【相馬 由香里】

1) 研究の目的

【経緯 何故この研究に取り組んだのか】

・指示も通り、小集団での行動は出来ているAさんだが、特定の場面で自発的な言葉や意思表示が少ないために友達の言いなりになり表情が暗くなることもある。その背景となるものを分析して支援を行うことで、思いを言葉やしぐさで表現できることが増えるのではないかと。

2) 研究仮説

【Aさんの実態】

- ・牧之原養護学校 三年生
- ・ダウン症(療育手帳B2)
- ・平成27年度10月児童相談所受診(発達年齢2歳半)
- ・保育所保育指針でAさんの実態を見る。
 - ・発達のでこぼこはあるものの、言葉での表出の部分で困りがある。指導員や友達とやり取りをしながら要求を出せるような環境を整え、伝える喜び(成功体験)を重ねていくことで、自信を持ち、意思表示が増えていくのではないかと。

3) 研究方法

・生活や活動の中で要求を出せる環境を整え、Aさんの行動分析を行う。

①おやつや物の貸し借り時などにやり取りを行う。

・自発的・・・○ ・促し・・・△

②イラストカードを用いて遊びを選択

(パズル・ぬり絵・外遊びなど、好きな遊びのイラストカードに名前のマグネットを張り付け意思決定する。)

4) 結果あるいは結果予想

・現在は、指導員が促すことで意思決定する場面が多いけれども、思いを伝える喜びを増やしていくことで、自発的な要求を出せる場面が増えていくのではないかと。

そうなることで



・指導員の促しやイラストカードがなくてもやりとりができるようになったり、友達との関わりの中で、思いを表出できるようになるのではないかと。

5) 進捗状況と課題

【進捗状況】

- ・指導員の促しにより、意思決定
- ・本児の関わり方への共通理解(指導員)

【課題】

- ・療育時間の確保
- ・週二日の登所利用

《参考文献3冊以上》

- ・障害児保育
- ・ソーシャルスキルトレーニング実例集
- ・ダウン症児のこぼを育てる

地域福祉への取り組み

～ネットワークの構築を目指して～

- 事業所名 【 あじさい園①】
- 発表者 【 久留 拓也 】
- パワーポイント【 泊 ひとみ 】

1) 研究の目的

【経緯 何故この研究に取り組んだのか】

目的

今回、あじさい園を利用されている方を1名選出し、その方を中心として様々な福祉関係機関を抽出し、役割や責務を明確にし、新しいネットワークを実践研究を通じ構築していきたくかったため。

2) 研究仮説

仮説①

多くの関係機関の役割を明確にする事で、今までなかったネットワークが発見でき、活用する事で利用者さんに対し多くの福祉サービスの提供が出来るのではないかな？

仮説②

ネットワークという響きの良さだけが先行してしまい関係機関との連携が上手く図れていないケースもあるのではないかな？

3) 研究方法

- ①対象者さんの背景を知り、「医療」「生活」「福祉」の部分を取り取っていく。
- ②各ジャンル事に関係機関と対象者さんとの相関図を作成していく。
- ③相関図を作成したら、連絡を行い、協力体制作りを行っていく。
- ④ケース検討会議を行い、各関係機関に参加を促し、役割や協力出来る部分・得意な部門を明確にしていく。
- ⑤アンケートなども行い、意識調査まで行っていく。
- ⑥データや意見をまとめ、ネットワークの構築を行い、研究発表として作成していく。

4) 結果あるいは結果予想

①結果予想

他分野等の関係機関をまとめる事や、協力体制自体を求める事は不可能ではないかな？

②結果予想

関係機関が多くある事で、逆にまとめる事が出来ないと思う。

5) 進捗状況と課題

進捗状況

現在、関係機関を抽出し、担当者とコミュニケーション・連絡を取り合っている状況である。

課題

ケース検討会議をある程度行う場合の協力体制をどうもらうか？または、日程調整を行っていく事が課題となっている。

《参考文献3冊以上》

- ・地域福祉論(しっかり学べる社会福祉) 著 川島ゆりこ
- ・ソーシャルデザイン実践ガイド 著 寛 祐介
- ・地域福祉について 社会福祉法人岡山県社会福祉協議会

私の場所を求めて

～安心できる場所はどこ！？～

- 事業所名 【 あじさい園②】
- 発表者 【 厚東 明子 】
- パワーポイント【 中島 都 】

1) 研究の目的

【経緯 何故この研究に取り組んだのか】

- ・ 団体生活や団体行動が困難な利用者様があじさい園を利用されており、その方に対し、お気に入りの場所や時間を提供する事で様々な問題が解決するかどうかを実践研究を通じ取り組んで検討していきたくため。

2) 研究仮説

仮説①

対象者さんのお気に入りの場所を明確に理解する事によって、本人の気持ちや支援方法が、以前よりわかり、少しずつだが他の利用者さんとの関わりを持つ機会が増えていくのではないかと？

仮説②

お気に入りの場所や時間を理解する事は良い事なのだが、本人が間違った意味で理解し、その場所に対して依存してしまうのではないかと？

3) 研究方法

研究方法①

本人が好きな場所・時間をリサーチしていく。

研究方法②

本人が嫌い・苦手な場所をリサーチしていく。

研究方法③

データをまとめ、本人の性格・障がい特性をチームで理解・協議しポイントを絞っていく。

研究方法④

苦手な団体生活の中で、本人の「お気に入りの場所」を提供出来る様にしていく。(方法を模索していく。)

研究方法⑤

提供した内容と実施内容を振り返って最終データをまとめ上げていく。

4) 結果あるいは結果予想

結果予想①

本人への理解や行動状況や職員の研鑽には繋がると思うが、1年間の取り組みだけでは解決するのは難しいと思う。

結果予想②

行動状況のデータから本人の気持ちをより推測出来るため、少しずつ団体行動が出来る様になっていくと考える。

5) 進捗状況と課題

進捗状況

現在、調査を行っているがここ最近特に不安定な行動が多くなってきている。その為、具体的な支援方法が早急に求められている状況である。

課題

本人が広汎性発達障害であり、また言語を話す事が出来ない。本当の気持ちや思いを聞くことが出来ない。その為、多くの支援方法を取り入れて、本人の気持ちをくみ取り、伝えていく事が必要であるため職員間の協議が必要である。

＜参考文献3冊以上＞

- ・聴覚・言語障がい者とコミュニケーション 著 一番ヶ瀬 康子
- ・発達障害の子どもの心と行動がわかる本 著 田中 康雄
- ・大人の発達障害を診るということ 著 青木 省三